

地域医療連携室がオープン！

今年 5 月 1 日から地

副院長 門谷 洋一

域医療連携室が開設されました。

は地域医療室から紹介医へ迅速にお知らせし、緊密な連携のもとに患者様の治療にあたりま

これまで市民病院と患者様のかかりつけ医や地域の医療機関との間で、治療に必要な情報を交換し、連携をとりながら診療を行な

患者様の治療にあたりま。また、地域医療連携室にはケースワーカーが 1 名常駐し、市民病院から他の医院、市民病院が協力して市民

ってきましたが、さらにその連携を強化し、患者様の受診の利便性を図るため、地域医療連携室を開設しました。

院への紹介窓口としての業務も行ないます。必要な方は気軽にご相談ください。現代の医療は一つの要とと考えています。

診察結果や治療方針

院への紹介窓口としての業務も行ないます。必要な方は気軽にご相談ください。現代の医療は一つの要とと考えています。

診察結果や治療方針

院への紹介窓口としての業務も行ないます。必要な方は気軽にご相談ください。現代の医療は一つの要とと考えています。

診察結果や治療方針

院への紹介窓口としての業務も行ないます。必要な方は気軽にご相談ください。現代の医療は一つの要とと考えています。

新しい医師研修制度はじまる

副院長 上藤 哲郎

市民病院では今年、大学を卒業した 3 名が臨床研修医師として働いていきます。

が集中しないよう人数を制限することなどがおこなわれました。研修医が行う医療行為はガイドラインが示されていて、それについて指導医師の監督下に行われます。

ご存知の方も多いため、今年から医学部を卒業した人は医師免許を取得した

のつとって指導医師の監督下に行われます。患者様との経験です。患者様と一緒に若い医師を育てることができた

対する研修制度が大きく変わりました。従来は卒業と同時に専門診療科を決めて、大学の附属病院で研修する

が、2 年間の研修が終わるまでには医師としての基本的な態度、知識、技量を確実に身につけるべく努力していきます。

の一般的なもので、この方法は専門領域のこ

るように整備するとともに、大学病院に医師

の一般的なもので、この方法は専門領域のこ

るように整備するとともに、大学病院に医師

の一般的なもので、この方法は専門領域のこ

るように整備するとともに、大学病院に医師

診療案内

内科、肝臓内科、心療内科、精神科、神経内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

◎初めて受診される時
1. 新患受付にある新患受付番号発行機から、番号札をお取りください。

2. 診察申込書に必要事項をご記入ください。
3. 新患受付前で、順次番号をお呼びし、受付をします。

4. 新患受付後、カルテをお渡ししますので、それをもって、各診療科の受付窓口へ渡していただき、各診療科診察室前でお待ちください。

5. 診察室から、お名前をお呼びします。
◎受付時間

月～金：午前 8 時 30 分～午前 11 時 30 分
ただし、脳神経外科（月）神経内科（水）耳鼻咽喉科（木）は午前 11 時まで

女性専門診療は第 2・第 4 金曜日午後 2 時（完全予約制・予約専用電話 9123356）

なお、健康診断は受付時間が異なりますのでご注意ください。

健康診断：月～金の午前 8 時～午前 10 時
◎健診ほか（いずれも有料です）

1. 乳児健診（生後一・三・六・九・十二か月児が対象）

2. 予防接種（小児が対象、予約が必要です）
日本脳炎、麻しん、三種混合（百日せき、ジフテリア、破傷風）、二種混合（ジフテリア、破傷風）、風しん

毎週水曜日 午後 1 時～1 時 30 分

3. 先天性股関節脱臼健診
診察 毎週水曜日 午後 2 時～午後 3 時

いずれも詳細は、市民病院業務課にお問い合わせください。

明石市立市民病院業務課

電話 9123323

病院ホームページ公開中！

明石市立市民病院ではホームページを運用しています。下記 URL までアクセスください。

http://www.city.akashi.hyogo.jp/shiminhosp/

診療科リレー 紹介

内科

内科部長

林 謙宏

病院を訪れる患者さんは、初めから受診する診療科が決まらない場合があります。例えば頭痛が痛い、熱がある、湿疹が出た、体がだるい、足が腫れる、めまいがするなどといった症状で、内科に行こうか、外科や耳鼻咽喉科に行こうか、あるいは皮膚科、婦人科に行こうか、実際迷う時があります。最初は何れの診療科を受診しても構わないと思いますが、中にはややこしい内科の病気が隠れていることがある

ので注意が必要です。もう一つは、消化器・甲状腺機能低下症に代循環器、神経以外の病表される内分泌疾患や膠原病、リンパ腫、骨髄腫などの疾患は、内科の病気でありなが患にはより高度な医療の病院を経て当科を受診されることも珍しくはありません。リウマチにしても、内科で診ることがあれば、整形外科で診ることもあります。こういった意味で、内科は殆ど全ての診療科と接点を持っている診療科と言えます。

消化器、循環器、神経などの内科疾患は分かっておれば、当院ではその専門内科があるので、最初からその診療科にかかるのがよいのですが、専門のほつきりしない、どの科にかかれればよいか分からない患者さんを診療する、あるいは初期の医療をする、いわば総合診療科的な役割を果たすのが私達の内科です。勿論初めて受診された日に、あるいは経過中に、必要であれば他の専門診療科に紹介することもあります。

1、血液疾患―感染と出血の合併症を防ぐのが大事で、簡易無菌治療室2ベッドを利用した抗がん剤治療や末梢血幹細胞移植を併用した治療を試みています。

2、腎疾患―腎不全・透析にならないように腎生検を行ったうえで治療方針を決めます。

3、高血圧症―脳、心、腎などの臓器の合併症をきたさない、臓器を守る高血圧の薬を選択しています。

4、呼吸器疾患―近年肺癌の患者さんはとみに増えています。

5、糖尿病―眼科医師と2名の糖尿病管理療法士とで、月に1回の割合で糖尿病教室を開催その啓蒙に努めています。狭心症・心筋梗塞の重大な合併症には循環器科と協力し、心臓カテーテル検査とカテーテルによる治療を実施しています。

早期の適切な診断と新しい抗がん剤の組み合わせた治療を行います。びまん性肺疾患、気管支喘息、呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患などの疾病に対しても、最新の治療を積極的



脳神経外科

脳神経外科部長

上口 正

社会の高齢化が進むなか、脳卒中は癌に次ぎ心疾患と同程度の多さの死亡原因疾患となつています。特に近年は脳内出血の頻度を脳梗塞が上回っています。脳梗塞に

ならないためには、何よりも予防が大切です。これには血圧を正

常を保ち、禁煙を心がけ、大量の飲酒を避けるなど、毎日の生活の中で気をつけることに始まります。また、特に暑い季節には汗で体の水分が失われて、血液が濃くなり、血栓が形成されやすい状況になることがありますので、十分に水分を補うことが大切です。暑

いさなかのお出かけの際、必ずお茶やお水のボトルを携帯され、汗が出たら飲むのを心がけるのがよいでしょう。

です。治療の基本はお薬を服用することです。さらに脳外科的な、つまり手術的な方法が必要となることもあります。

当院脳神経外科は専門医2名で日夜きりもりしている診療科です。毎日の外来診療に加えて、月曜日は定期手術、木曜日は脳血管撮影を行っています。また、救急当直医の要請で休日や夜間も救急診療を行い、緊急手術や処置を行っています。脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷など、種々の疾患に対応しており、特に最近では従来の直達手術に加えて、血管内手術という手法によって脳動脈瘤、閉塞性脳血管障害の治療も行ってまいります。私たちがとってはめまぐるしい毎日ですが、納得のいく医療を提供させていただこうと努力を続けております。

年齢が重なりますと、自然に動脈硬化が進んでいきますので、動脈に細い部分ができてしまうこともありつております。私たちがとってはめまぐるしい毎日ですが、納得のいく医療を提供させていただこうと努力を続けております。

皮膚科

皮膚科医長

野田 洋介

現在当科のスタッフ

は平成2年卒の皮膚科医(日本皮膚科学会皮膚科専門医)1名に、また、皮膚腫瘍だけですが、というわけ

で何曜日に受診されても常に同じ医者が診察します(夏休休暇期間には代診になることがあります)ので、患者さんの状態の把握が確実に提供できます。対象疾患は皮膚科疾患全般で、アトピー性皮膚炎(ナローバンドUVB)などの湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹、紅斑症、紫斑病、皮膚潰瘍治療、熱傷、乾癬などの炎症性

皮膚腫瘍、色素異常症、発汗異常症、毛髪疾患、爪甲疾患、細菌性疾患、帯状疱疹などのウイルス性疾患、水虫などの真菌症、原虫・動物性疾患、梅毒などあらゆる皮膚疾患を対象としています。

最近のマスコミによる宣伝効果やレーザーなどの医療機器の発達に伴い、今までは治療の対象外であった「あざ」や「しみ」で皮膚科を受診する患者さんが増えてきています。また、にきびなどに対するケミカルピーリングも新しい治療法として確立されてきています。このようにいわゆる「美容皮膚科」は最近のトピックスではありますが、残念ながら当科ではそこまで手が回りませんので実施していません。今後の課題と考えています。

看護部通信

はじめまして、 じよくそう 褥瘡対策委員会です

「褥瘡ってなに？」と、上でも大切なことである。言う方も多いかと思ひます。

褥瘡とは俗に言う「床ずれ」の事です。車椅子の方や、自力では動きにくい方に多く見られます。一度できると正しい対策をしなると、治るのに時間がかかります。

褥瘡は、同じところを長時間圧迫することや、移動するときに寝具やパジャマとの摩擦や皮膚がズレ（皮膚が引つ張られた状態）たりすることで起こる皮膚の障害です。

その他、やせ、栄養状態の悪化、摂食不良、むくみ、尿失禁、便失禁、発汗、加齢による皮膚の変化、また、基礎疾患、薬などいろいろな要因が重なり合っただけでなく、褥瘡の発生は、患者さまの生活の質を考へる

将来は、外来患者様のお役にも立ちたいと考えています。

褥瘡対策の ワンポイント アドバイス！

①円座は要注意

一昔前までは良く使われていた円座ですが、褥瘡患部を浮かす目的に使ってはいけません。円座によって患部の周囲が圧迫され血液の流れが悪くなり、よけいにひどくなる場合があります。

②マッサージは厳禁

赤くなっている皮膚に、マッサージをすると、炎症が進行し損傷がひどくなる場合があります。血行を良くしようとして逆効果になります。

③ズレは危険

車椅子やベッドに座るときは姿勢が保てるようにクッションなどでカバーしてあげてください。ズルズルとずれ落ちて行くと皮膚を引っ張ってしまうので良くありません。

④清潔が一番

皮膚は常に清潔を保つようにしましょう。全身状態が許せば入浴やシャワーは多くとりましょう。清潔になり、血液の循環も良くなります。

⑤足湯は効果的

入浴出来ないときに入浴出来ないときは足湯がおすすめです。全身の血液の循環が良くなり予防にも治療にも効果的です。

⑥同一体位は圧迫のもと

長い時間同じ方ばかり向いて寝ていると下になつているところに重みがかかり圧迫されて良くありません。できるだけ向きを変えようようにしましょう。痛みなどが出て変えられないときは、同じところに着目がかからないようにクッションなどで工夫してあげてください。

⑦患部は洗います

キズの中はこすつてはいけません。まわりの皮膚を弱酸性の洗浄剤で優しく洗い、出来るだけ多くの水で流します。水道水でかまいません。多く水で洗い流すことが大切です。感染がなければ消毒は必要ありません。

⑧栄養が大切

栄養状態が悪いと褥瘡が出来やすく、また、治りにくくなります。出来るだけバランスの良い食事を摂りましょう。



術後静脈血栓症、肺血栓塞栓症の 予防について

みなさんはエコノミークラス症候群ということばを聞かれたことがありでしょうか？飛行機旅行などで狭い座席に長時間座つていたために、足の静脈の流れが悪くなり、静脈の中で血栓（血のかたまり）ができ、歩き出したとたん、血栓が飛び、肺動脈を閉塞してしまふ病気であります。

これと同じことが手術の後や、長期に臥床が必要な患者さんに発症することがあります。太い肺動脈を閉塞すると致命的になるこわい合併症です。従来、欧米人に比べ日本人には少ないとされてきました。しかし、最近では日本人にも決して少なくないことが報告され、この予防の必要性が認識されるようになりました。当院でも静脈血栓塞栓症対策委員会を検討し、院内予防ガイドラインを作成しました。予防法には次のようなものがあります。

- ・ 術後でもベッド上で足をよく動かし、できるだけ早期に歩行する。
 - ・ 弾性ストッキングをはき、足を圧迫することにより静脈のうっ滞を予防する。
 - ・ 術中や術後の一定期間、圧迫ポンプで足のマッサージをする。
 - ・ 血液を固まりにくくする薬を使用する。
- 術前にそれぞれの患者さんの血栓ができるリスク（危険性）の程度を判定し、そのリスクに応じた予防法を選択して行なうことにより、静脈血栓、肺塞栓症の予防に努めています。しかし、それでも完全に予防できるわけではないのが現状です。

みなさんも長時間の飛行機旅行などでは足の運動を十分行なうよう心がけてください。

(副院長 門谷 洋一)

「夏の暑さに 負けないために」

主任栄養士 川端 千裕子

一年の中で最も暑い時節を向かえます。暑くなるとう当たりの良いそうめんや冷やっこなど冷たくてさっぱりとしたものが好まれますが、健康に夏を乗り切るにはバランスのとれた食事を心がけ、おいしく食べる工夫をしましょう。

最近は何年中何でも手に入りますが、旬（しゅん）のものはやはり、その季節に食するのが一番おいしく栄養価も高いといわれています。この時期の旬といえば魚介類ならイサキ、スズキ、ハモ、ウナギ、タチウオ、アナゴ、タコ、アユ、アワビなど、野菜くだもの類では枝豆、トウモロコシ、トマト、ナス、シロウリ、キュウリ、オクラ、ミョウガ、カボチャ、桃、スイカなどです。なかでもウナギは夏に好まれ「土用の丑の日」にはウナギを食べる風習があります。土用のころは一年中で最も暑く食欲が減退し体力も衰えがちです。そこでビタミンAやDを多く含む、栄養豊かなウナギを食べて夏バテの回復をはかるというわけですね。万葉人もウナギは夏やせの特効薬と考えていたそうです。当院でも例年七月の「土用の丑の日」にはメッセージカードを添え、ウナギを使った行事食を提供しています。

入院中の食事は病状により異なりますが、旬の食材を献立に取り入れ入院生活に季節感と潤いを感じて頂けるよう努めています。患者様からの感謝やご意見のメッセージをいただくたびに栄養士調理員一同気持ちを新たにがんばっております。

なお、O・157発生以来野菜は加熱処理にて提供させて頂いております。食中毒が発生しやすい時節ですので手洗いを心がけましょう。

車椅子トイレの使用に関して、患者さんにご迷惑をかける出来事がありました・・・

看護部長 田中 初美

ある男性患者さんが1階で急にトイレに行きたくなりましたが、外来の車椅子トイレは清掃中でした。近くを探しても見当たらないため、直近の3階へ行かれました。これから入ろうとした時に看護師から「ここは産婦人科病棟ですが・・・」と声を掛けられ使用することができませんでした。『男性・女性の区分がある場合は別として、通常は車椅子用の表示だけの場合は男女共用のはず。なぜ使用できないのか？ 病院のなかでこのような制限はいかかなものか。』『車椅子トイレの場所がわかりにくい。他のどこを使用できるか案内や表示がない。』などのご意見を寄せられました。

産婦人科の病棟でも、患者さんはもちろん、ご家族や面会者など必要であれば男性の方にもご利用頂けるのが基本ルールです。人間の生理的現象は誰も抑えることはできません。やっとたどり着いたのに、使用できなかったらいいお気持ちを察すると本当に申し訳なく思います。

外来の車椅子トイレの場所案内については、ご意見を参考にさっそく改善いたしました。1階エレベーターの前にパネル表示し、リハビリ室の横にも車椅子トイレがあることをご案内しております。このようなことも患者さんからのご意見でようやく気づくことができました。ずっと病院で働いていながら、「患者さんの立場で考えること」が不足していたと反省させられました。

現病舎になって、十五年が経過しました。当時は近代的な設備でしたが、現在ではバリアフリーなど、社会のニーズを十分に満たすことができなくなっています。車椅子トイレの不足もそのひとつですが、私たち病院職員は現有の設備を以って、いかに患者さんにご満足いただけるか、創意工夫を続けております。また、何よりも大切なことは心のアメニティー向上です。ちょっとした声掛けや、気配りをすすめ、気持ちよく市民病院をご利用いただけるよう努めてまいります。

院内情報局

この情報は8月1日
現在のものです。
詳細は総務課まで

健康明石 21 市民公開講座

・8月19日(木)

画像検査—最近の進歩—

—放射線検査でわかること—：放射線科

—超音波検査でわかること—：臨床検査科

・9月16日(木)

心の病について—ストレスに打ち勝つため

に—：心療内科

食生活から見た生活習慣病—バランスよく

食べましょう—：業務課

・10月14日(木)

救急疾患—急を要する子供の病気—：小児科

救急疾患—急を要する大人の病気—：麻酔科

・11月18日(木)

頭痛とめまい—こんなときには急いで診察

を—：神経内科

早期受診が必要な耳鼻科疾患—早めの手当て

が肝心—：耳鼻咽喉科

各日とも午後2時から、正面玄関右手の階段を上った2階講義室で開催します。

入場無料です。直接会場までお越しください。

皆様のご意見をおきかせください

来院された皆様の病院に対するご要望をお聞きするために、外来3箇所と各階病棟にご意見箱を設置しています。ご意見、ご要望、苦情など何でもお気づきになったことをお知らせください。内容を参考にして、より良い病院作りに役立てたいと思います。

いや癒しの森 作品募集

「癒しの森」では皆様からのご意見、作品を募集しています。

お問い合わせ 広報委員会

編集後記

はじめまして。このたび、前編集長の転勤にともない、編集長がかわりました。突然のことでしたので、何をすればよいものか、わからない事ばかりですが、今回はなんとか形にすることができました。仕事の合間でやるには苦勞の多い役目ですが、読者のみなさまに楽しんでいただけるような新聞を作ってゆきたいと思っております。みなさまのご意見などをお聞かせ願えれば幸いです。(月下独酌・編集長)